

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	18107007	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	古代中国人類集団の遺伝的多様性と その変遷ならびに生活史の解明	研究代表者 (所属・職)	植田 信太郎（東京大学・大学院理 学系研究科・教授）

【平成21年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、古人骨のDNA分析から古代中国人類集団の変遷を明らかにしようとする、日本の第一線の研究者による極めて野心的なものである。研究の進捗状況については、以下の理由で、やや低い評価とならざるを得ない。

(1) 研究経過や成果(例えば、サンプル数、分析できたデータ数、DNAやハプログループについての記述、検出された金属の種類等)に具体性が欠けている部分がある。(2) 発表された論文について、古代中国人類集団の遺伝的多様性に直接言及しているものはごく一部で、本研究のメインテーマと密接に関連しているとは言いがたい。かつ、謝辞等に本研究による成果と明記されていないものが目立つ。したがって、本研究がどの程度これらの成果に寄与したのか、明確でない。(3) 研究成果の発信についても、ホームページ等の更新が充分ではない等、問題点が散見される。

これらの状況は、古人骨のDNA分析という極めて先端的なテーマゆえに、研究上の問題点を逐次クリアしなければいけないという制約を反映しているものと考えられる。今後はこうした問題点を克服していくことが望まれるとともに、研究の進展状況を明確にするため、本研究における成果の速やかな公刊を望むと共に、研究目標の遂行に向けての今後の一層の努力を期待する。

【平成24年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価にあるようにきわめて野心的・先端的な研究で、研究成果報告書からは、興味深い所見が得られていることがうかがえる。研究進捗評価後にも、河南省商代前期遺跡出土人骨のDNA分析や古代中国の炭化米分析に進展がみられる。しかしながら、研究終了後に公刊された論文を見ても、上記の興味深い所見を扱ったものや、研究進捗状況報告書の問題点と自らその重要性を指摘している次世代シーケンサーを使用した、古人骨の病理学的法医学的分析に関して当初の目的に迫るものがない。研究結果の重大性から査読に時間を要している可能性もあるが、論文として公刊されていないという点において、研究進捗評価を変更する根拠は見当たらない。また、ホームページを見ても、この研究計画に対する記載もなく、研究進捗評価時点から十分進展したとは言いがたい。
B	